

公立幼稚園の耐震改修状況の調査結果について（都道府県別）

Table with columns for Prefecture (設置者名), Non-wood structure (非木造), Wood structure (木造), and Seismic reinforcement measures (II, III). It includes detailed counts for various types of buildings and their seismic status, along with percentages of completion.

公立幼稚園の耐震改修状況の調査結果について（都道府県別）

設置者名	Ⅰ 構造体の耐震化（棟単位）														Ⅱ 屋内運動場等(屋体・武道場・講堂・屋内プール)で下記のいずれかに該当するもの落下防止対策 ※高さが6mを超える天井または、水平投影面積が200㎡を超える天井 (棟単位)										Ⅲ 左記以外の非構造部材の耐震点検・耐震対策(学校単位)													
	非木造							木造							構造体の耐震化の公表状況										耐震点検状況													
	現状				耐震化率	現状				耐震化率	建築物の耐震診断の公表状況		耐震性が無い建築物について 調査済や地域住民への説明状況	吊り天井を有する棟数 ※高さが6mを超える天井または、水平投影面積が200㎡を超える天井	吊り天井・照明・バスケットゴールの全てを有する棟数 (一部未実施を含む)	耐震対策実施の棟数	耐震対策実施率100%となる年度	耐震対策が施されている理由 (自由記載)	耐震点検実施棟数	うち、学校設置者による点検実施棟数	耐震点検実施率	耐震点検結果				耐震対策状況												
	全棟数	耐震性が無い棟数 (R5.4)現在	耐震性が無い棟数 のうち、第二次診断等実施済棟数	定形のうち、非定形木造の棟数		耐震性が無い棟数 (R2.4)現在	耐震性が無い棟数 (R3.4)現在	耐震性が無い棟数 (R4.4)現在	耐震性が無い棟数 (R5.4)現在		耐震性が無い棟数 (R6.4)現在	耐震性が無い棟数 (R7.4)現在										耐震化率が100%となる年度	耐震化が施されている理由 (自由記載※1)	α	β	N=O+P	O	P	Q	R	S=T+U	T	U	V	W	X	Y=W/V	Z
A	B	C	D	E=(A-B)/A	F	G	H	I=B	J	K	L	M	A'	B'	C'	D'	E'=(A'-B')/A'	α	β	N=O+P	O	P	Q	R	S=T+U	T	U	V	W	X	Y=W/V	Z	AA=Z/V	AB	AC	AD	AE	
長崎県	15	0	0	0	100.0%	3	3	3	0	0	0	—	—	5	0	0	0	100.0%	—	—	0	0	0	—	—	5	5	0	20	20	16	100.0%	16	80.0%	16	16	—	—
熊本県	25	0	0	0	100.0%	0	0	0	0	0	0	—	—	1	0	0	0	100.0%	—	—	0	0	0	—	—	0	0	0	22	22	18	100.0%	20	90.9%	19	19	—	—
大分県	65	0	0	0	100.0%	0	0	0	0	0	0	—	—	8	0	0	0	100.0%	—	—	0	0	0	—	—	2	2	0	77	77	66	100.0%	70	90.9%	70	70	—	—
宮崎県	5	0	0	0	100.0%	0	0	0	0	0	0	—	—	0	0	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	10	10	8	100.0%	6	60.0%	6	6	—	—
鹿児島県	42	0	0	0	100.0%	0	0	0	0	0	0	—	—	2	0	0	0	100.0%	—	—	0	0	0	—	—	1	1	0	56	54	43	96.4%	44	78.6%	44	44	—	—
沖縄県	163	2	0	0	98.8%	16	16	9	2	2	1	—	—	0	0	0	0	—	—	—	—	—	—	—	—	0	0	0	149	129	109	86.6%	98	65.8%	110	115	—	—
合計	3,821	65	33	13	98.3%	153	117	91	65	56	45	—	—	355	0	0	0	100.0%	—	—	15	15	0	—	—	107	85	22	3,387	3,193	2,443	94.3%	2,494	73.6%	2,550	2,584	—	—

※1 ①統廃合等と併せて実施するため ②学校数が多く事業の平準化を図っているため ③他の事業を優先的に進めざるを得ないため(他の公共施設整備を優先しているため) ④財政的な理由により取組が遅れているため
 ※2 ⑤改築等の工事に着手しているが、工事未完了のため ⑥新たに耐震診断を行った結果、耐震性が無いことが判明し、工事未完了のため ⑦災害復旧等を優先する必要があるため
 ※3 平成18年1月25日付け国土交通省告示第184号の別添「建築物の耐震診断及び耐震改修の実施について技術上の指針となるべき事項」に規定された木造建築物の耐震診断の指針に基づく診断(以下「告示に基づく診断」とする)を行った建築物の棟数
 ※4 屋内運動場等：屋内運動場・武道場・講堂・屋内プールとして使用する大規模空間(高さが6mを超える又は面積が200㎡を超える空間)
 ※5 「落下防止対策実施済み」とは、吊り天井・照明器具・バスケットゴールの全てに対して、補強・再設置などの対策(吊り天井については、国土交通省が平成26年4月に施行された技術基準を満たす対策。撤去を除く。)を実施した又は耐震点検の結果、すでに対策が実施されていた棟数
 ※6 「照明・バスケットゴールの全てを落下防止対策実施済み」とは、照明器具・バスケットゴールの全てに対して、補強・再設置などの対策を実施済の棟数又は耐震点検の結果、すでに対策が実施されていた棟数